2025 年度事業報告書

（2025 年 3 月 21 日から 9 月 30 日まで）

１　美術館及び博物館職員等の刀剣文化等に関する調査研究への助成事業

（定款第 3 条第 1 項第 1 号関係）

2025 年 3 月 21 日に社団法人を設立後、他機関による助成事業について、制度のリサーチ、また学識経験者や文化庁職員へのヒアリングなどを行った。4 月 17 日に第 1 回（2026 年度）の応募要領を公式サイト上で公開、国内の刀剣収蔵博物館約 70 施設に周知のための資料を送付した。5 月 27 日には Web 版美術手帖による取材記事が公開され、美術手帖公式 X アカウント、刀研機構公式 X アカウントでの同記事インプレッション数は約 60 万回超に達した。7 月 31 日に 6 件の応募をもって受付を終了。ふくやま美術館館長・原田一敏氏を審査委員長として、全 7 名の学識経験者が厳正な審査を行った。事業年度としては次年度となるが、11 月 4 日に条件付きながら 3 件の採択をもって審査結果を発表した。

２　刀剣等の修復及び新作に関する助成事業

（定款第 3 条第 1 項第 2 号関係）

刀剣等の修復及び新作に、どのような基準、条件で関わっていくべきかを検討するためのリサーチ、ヒアリングを行った。

３　文化資源及び学術資源の利活用に関する調査研究への助成事業

（定款第 3 条第 1 項第 3 号関係）

・自主的な研究プロジェクトを立ち上げるためのリサーチ、ヒアリングを行った。

・7 月 20 日に業務執行理事の橋本麻里が、英・レスター大学の博士課程在学中の Jianjun Ye（ジエンジュン・イエ）氏からのインタビューに協力した。Ye 氏はその成果を、11 月 15 日の ICOM ドバイ大会 INTERCOM/ICOMON（マネージメント国際委員会/貨幣博物館国際委員会）にて、「Gaming Profits, Cultural Gains——Nitroplus’s Innovative Funding Model for Museums」として発表した。

・9 月 19 日に業務執行理事の橋本麻里が招待制研究者ビジネスカンファレンス「essesense Future Forum 2025 -知の共創と未来への道程-」（東京）に参加。Special Session「100 年先のための資金を科学へ」に登壇し、自然科学、技術開発系の研究者を支援する団体代表者らと、研究知と資金循環エコシステムについて討議した。